

敷田年治 としはら 國學者。文化十四年七月二十日豊前國宇佐郡敷田村  
生れ、明治二十五年一月二十日歿（八一七—一九〇二）。舊姓宮本、吉松氏  
を嗣ぎ、弘化二年敷田に改姓。幼名主許之助、通稱吉松上總介、吉松  
主許介、吉松仲治、吉松年治、大江建丸、大隈第（一治）郎、大隈連、  
敷田代（二郎）、敷田大次郎、敷田百助、敷田藏人、苗木百助。號百園。  
初の帆足萬里に漢學を、宇治久守に和歌を學ぶ。嘉永六年江戸に赴き、  
鈴木重胤、黒川春村等と相知り國學を研鑽。慶應四年大坂で國學講習會  
所講師、また伊勢の神宮皇學館教頭、久邇宮（巖麿王）待講となる。  
晩年大阪の百園塾を開き、専ら和歌を子弟に教授。

著書に『官故』（明治十一年九月大阪・松田正助刊）、『假名沿革』  
（大正二年十月五日岡山・歌文珍善保存會）、『他萬能由久問』（内  
題「魂のゆくへ」新海筆齋、大正二年一月五日煤道屋藏梓、誠之堂書  
店）、『桃紅葉』全二冊（角正方編、昭和七年一月二十日大阪・敷田  
年繼刊）等。高梨光司著『敷田年治翁傳』（大正十五年四月二十五日  
大阪・播仁文庫）がある。